

令和8年2月26日(木)

ごみ収集パイプライン利用者の会 委員各位
自治会会長 管理組合理事長 各位
芦屋浜自治連合会 顧問 各位

ごみ収集パイプライン利用者の会
委員長 山口 能成

第 103 回 ごみ収集パイプライン利用者の会 開催のご連絡

平素より、ごみ収集パイプライン利用者の会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

寒暖差の大きい日が続いておりますので、どうぞ体調には十分ご留意ください。

さて、今回の利用者の会では、「2025 年次報告書 — 現状と未来への道筋」が完成しましたので、その内容をご説明し、配布いたします。

あわせて、ワーキンググループで検討しているパイプラインに代わるモニター実施(実証実験)について、現時点での検討状況をご報告いたします。

なお、高浜 2 街区では現在もパイプラインの停止が続いております。引き続き、ごみ出しのルールとマナーを守っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

記

- 日時:2月26日(木曜) 19:30~20:30(最大60分)
- 予定議題
 1. 2025 年次報告書の配布
 2. マナー違反状況(2025 年 4 月~2026 年1月)
 3. 輸送管補修状況
 4. 2 月のワーキンググループの報告(モニター実施の検討)
 4. その他の話題
- 場所 : 芦屋浜センタービル 小会議室
- 今後の予定:

第104 回利用者の会:3月26日(木) 19:30~20:30

以上

第103回 利用者の会— 今の状況を確認し、これからの進め方を考える会

① 今回の目的(この会議で確認すること)

1. 2025年次報告書を皆さんに配り、内容を共有すること
2. 利用者の使い方が原因で起きているトラブルを整理し、対策を決めること
3. パイプラインに代わる方法を試す「モニター」の準備状況を確認すること
4. パイプラインの老朽化がどこまで進んでいるかを共有すること

② 今、起きていること(使用できる期限は決まっています)

- ・芦屋浜は2039年まで
- ・南芦屋浜は2051年まで
- 維持費は年間約2億円かかっています。トラブルが起きると、その分さらに費用が増えます。
- 利用者の使い方が原因のトラブルが約20件発生
 - ・カギのトラブルが8件(いちばん多い)
 - ・排出弁の詰まりが4件(大きな事故につながるおそれ)
 - ・特定の地域に集中している傾向あり
- 管路の老朽化が進んでいます
 - ・曲がった部分にこぶし大の穴が発生
 - ・3日間パイプラインが停止
 - ・臨時のごみ回収を実施

これまでは「まだ使える」状態でしたが、今は「いつ止まってもおかしくない」状態に近づいています。

③ 今回、話し合う主な点

1. すぐにできる対策を実行するか
 - ・カギの交換を呼びかける
 - ・「90度しっかり回してから抜く」図を掲示する

→ カギのトラブルは減らせる可能性があります。

2. 注意の伝え方を強めるか

これまでは「お願い」中心でした。今後は、影響をはっきり伝える方法を検討します。

- ・止まると全体に影響がでること
 - ・修理に多くの税金がかかること
 - ・実際の詰まりの写真を示すこと
- より効果のある伝え方を考えます。

④ これからの予定(3月までに行うこと)

- ・年次報告書の配布を完了
- ・カギ対策の実施を決定
- ・次回の予定3月26日(木)19時30分~20時30分

第 102 回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

日時	2026年1月29日 19:30~20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	青木(アステム D 棟)、友田・勝山(アステム C 棟)、村山(芦屋浜第1住宅)、井上・小黒(浜風町第1住宅)、飯田(浜風町第 4 住宅)、小林・末友(新浜町住宅)、三浦・池西・花園(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、山口(アステム A・B 棟)、辛川(芦屋浜第2住宅)、河本・高木(緑第二住宅)、清水(潮見第三住宅)、春木(南浜 1 街区)、寺前(市議) 合計19名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. パイプライン運転状況 2. 2026 年次報告書案の検討 3. ワーキンググループの報告(代替案の検討) 4. その他の話題

1. 開催概要

本会は寒冷の中、参加者への謝意を述べたうえで開会されました。来年度も引き続き、利用者の会ならびに関係会合を継続して開催し、代替案を中心に検討を深める必要がある旨が共有されました。

本日の主な議題は、①現在のパイプライン運転状況、②年次報告書(案)の確認、③代替案と実証実験(モニター)計画の説明の三点とされました。資料はホームページにも掲載しており、随時参照可能である旨が説明されました。

議題 1 現在のパイプライン運転状況

【説明】

10月1日から12月31日までの運転状況について、3か月間のごみ量、ブローワー運転状況、電力量(試算)が報告されました。ごみ量は「投入されたごみそのものの重量」だけでなく、水分を含んだ状態で計測されるため、雨量等の影響を受ける点に注意が必要であるとの説明がありました。このため、前年差(例:100%~103%)が見えても、実質の増減は雨の状況に左右される可能性があるという整理でした。

ブローワー運転量は概ね前年並みである一方、令和5年度と比較して増加して見える要因として、過年度に実施していた「満杯箇所のみ吸引する運用」を取りやめ、通勤者等が投入口周辺に置くことによるカラス被害を避けるため、効率よりも衛生・散乱防止を優先して吸引する運用にしている点が説明されました。

電力量については、関西電力の単価指標(17.21円)を用いた試算として、3か月で約55万4,900円相当との説明がありました。

投入口の満杯状況については、芦屋地区は週初(特に月曜日)に満杯ランプが多く、曜日により偏りが見られること、南芦屋地区は満杯が少なく、効率化の余地があるとの認識が示されました。

土曜日は日曜午前までの排出余地を確保する趣旨で、満杯に限らず吸引する運用としていくことも共有されました。

また、機械故障等により朝の自動運転が実施できず、担当者が手動操作で対応するケースが散発する点も説明されました。今後の検討課題として、利便性と電力量がトレードオフであるため、運転方式をどう設計するかが重要であるという問題提起がなされました。

議題 2 高浜地区の詰まり・停止対応(危険ごみ混入問題を含む)

【説明】

高浜地区において、11月以降に詰まりが発生し、約3か月にわたり停止していた経緯が報告されました。高圧洗浄を複数回実施し、結果として数百万円規模の費用を要した旨が説明されました。

原因は一部利用者による不適切投入が疑われ、少数の行為が大きな税負担につながる点が強調されました。

停止期間中の代替として、投入口周辺に蓋のない集積容器(ごみカート)を複数設置し、そこへ投入する運用を行ったことが報告されました。しかし、その運用の結果、鍋等の生活用品、さらにはガスボンベ、リチウムイオン電池等の危険物が混入していたことが確認されました。パイプライン復旧後に同様の投入が続けば、再び重大障害や火災リスクに直結するため、現時点では「技術的には使用可能でも、安全上の懸念からパイプラインを稼働させない」という判断をしている旨が説明されました。

当面の措置として、週2回、代替回収を外部業者に委託しており、1回4.5万円、週9万円程度の費用が継続して発生しているとの報告がありました。改善に向けては、周知チラシの表現をより強くし、掲示だけでなく戸別配布を行う方針が示されました。さらに、特定可能な場合は市が直接是正を求め、従わない場合は法的措置(訴訟)も視野に入れるという、厳格化の方向性が共有されました。

併せて、管理側が指定袋へ入れ替える対応は、利用者がルール違反を自覚できず、是正につながりにくいとして、今後は行わないよう求める趣旨の説明がありました。賃貸居住者のルール浸透が課題になりやすいという認識も示されました。

【Q&A】

Q1.(確認)高浜の状況は、復旧しても「使わせない」という判断なのですか。

A1. はい。現時点では使用可能でも、危険物混入等が続く限り、稼働すれば重大リスクが

あるため、まずは周知徹底と内容改善を確認しながら、週 2 回の回収で様子を見る方針です。

議題 3 年次報告書(案)の確認・修正点

【説明】

年次報告書(案)について、総務会での叩き台確認を踏まえ、本会で合意が得られれば印刷工程に入り、2 月発行を目指す方針が説明されました。表紙・裏表紙の画像は AI 生成を活用して作成したこと、文字の誤りや表現の不備は修正する旨が共有されました。年次報告書の年度表記は、データ対象が前年であるため「2026」ではなく「2025」とする修正方針が示されました。

内容面では、条例上の使用期限(芦屋地区:令和 16 年から順次移行、南芦屋地区:令和 31 年から)を明記し、災害等で前倒しとなる可能性があるため、早期に実証実験を行い備えるという位置づけが説明されました。

また、実際に詰まり時に排出された物品(寝具、衣類、家電、植木鉢、皿、フライパン等)を写真付きで示し、少数の不適切行為が高圧洗浄等の追加費用を発生させる点を周知する構成とすることが報告されました。過去例として石、包丁、瓶等の投入事例も掲載し、啓発効果を狙う方針が示されました。

維持費の説明として、パイプライン維持に係る費用(例:2024 年約 2.32 億円)と、市全体のごみ処理費用(例:約 15.6 億円)との対比を掲載し、利用量比(約 7%)に比べ費用負担が大きいことを可視化する意図が説明されました。年次表記の統一(西暦/令和の混在解消)も修正点とされました。

資源化率の現状(例:資源化率 16.2%)にも言及し、全国・都市部の最終処分場制約も含め、資源化推進が重要であるという問題提起がなされました。

投入口トラブル(鍵抜け、結び目引っ掛かり等)については件数を整理し、「横向き投入」「最後まで回す」等の具体的注意事項を再掲する方針が示されました。

さらに、パイプライン運転時間を住民に分かりやすく示す工夫、指定袋使用の見せ方(文字中心から図表中心へ)など、表現改善の提案がありました。

分別一覧(捨ててよい/いけない)については見開きで使えるように整え、家庭内で掲示できる形を意図する旨が説明されました。リチウムイオン電池に関するページはタイトルの誤りがあるため修正することが確認されました。

配布計画として、合計約 7,500 部の印刷を想定し、うち 500 部は転入者向けに市窓口で配布する枠とし、賃貸居住者にも確実に渡るよう運用する方針が説明されました。

【Q&A】

Q1. 年次報告書の「年度表記」に誤りがあるようですが、修正しますか。

A1. はい。データ対象年度に合わせ、「2025 年次報告」等へ修正します。また西暦／令和の混在も解消します。

Q2. 多言語化(ひらがな版／外国語版)について、方針はありますか。

A2. ひらがな版は「幼稚だ」との反応もあり、扱いは検討課題です。外国語版は AI で作成自体は可能ですが、正確性の担保が必要です。日本語学校等への配布案も含め、他自治体の事例も踏まえ検討します。

議題 4 代替案と実証実験(モニター)計画

【説明】

代替案については、パイプラインの将来的な終了を見据え、各住宅形態別に団体を選定し、夏～秋にかけて段階的に実証(モニター)を行う計画が説明されました。「実証実験」という言葉が分かりにくいとの意見があり、「モニター」表現へ変更する案も示されました。

対象団体の想定として、高層はアステム A・B 棟(交渉中)、中層はラベル(1・2・3)、タウンハウスは浜風 5、戸建は緑 2 の計 4 団体を候補とし、各団体に対して協力依頼を進めている状況が報告されました。

各団体では、代替収集方式を一定期間実際に運用し、アンケート等により距離、臭気、利便性、散乱、景観、子ども・高齢者の使いやすさ等を検証し、問題点を抽出して最終案の改善につなげるという目的が説明されました。市は原則として複数案を提示し、最終的には住民側が選択する形を目指す、という経緯も共有されました。

設備案として、高層ではカートを複数並置する方式、金属・金網の囲いを伴う方式、囲いのみ(手投入)等が検討されている旨が説明されました。加えて、建築基準法上の制約(例:奥行 1m 以内、高さ 1.4m 以内等の条件)や、屋根を付けると「建築物」扱いとなり得るため原則不可である点が課題として示されました。衛生面から屋根や水道設備の要望はあるものの、法令・排水処理等のハードルがあるため、設計段階で調整が必要という整理でした。

タウンハウス・戸建については、露出したカートの景観上の抵抗感が大きいことから、ステンレス等で囲う「収納ボックス」案が紹介されました。ただし光沢(ピカピカ)を避けること、色彩、寸法制限、投入口サイズ(例:30L 以下ルール必要性)等、運用ルールと一体で設計すべき課題が提示されました。

また、金属ボックスは外から中身が見えず、危険物・不適物が入りやすいとの懸念があり、収集側の負担や安全性の観点から慎重な評価が必要であるという意見が示されました。

費用面については、国全体・自治体財政が厳しいという見通しが述べられ、過度に高機能・高コストな設備は、維持管理の担い手や運用能力とのバランスを欠くおそれがあるため、できるだけシンプルで実務に耐える解を志向すべき、という考えが示されました。

さらに、協力団体の意思決定については、理事会判断だけでは「3 か月パイプラインが使えない」不利益が大きく、総会での一定の決議(例:過半数)を経た方が納得形成として適切ではないか、という論点が共有されました。

【Q&A】

Q1.(実験団体)協力依頼している団体が断った場合はどうなりますか。

A1. その場合は、別の候補団体に依頼していく方針です。

Q2. リチウムイオン電池の回収箱を、今のうちから地域に置くことはできませんか。

A2. 理解はできますが、勝手に設置はできません。設置者が責任を持たないと、爆発等の事故時に責任問題になります。現状は市の定めた回収方法(指定場所や専用容器)に従う必要があります。習慣化の重要性は認識しており、アンケート等でも実態を把握していきます。

議題 5 その他(次回予定)

【説明】

次回開催日は、2月最終木曜日(資料表紙に記載:2月26日)と確認されました。実証(モニター)実施地区の確定は、各団体での合意形成(場合により総会決議を要する)が必要なため、直近では決まり切らない可能性があることが共有されました。閉会にあたり、寒冷中の参加に謝意が述べられ、解散となりました。

1. 2025 年次報告書の内容と配布

1 月にお知らせをしました「2025 年次報告書」が完成しました。今回は7000部作成しています。印刷費用¥153,708 円(1部 22 円 カラー16P)となっています。お手数ですが皆様の組織へ配布をお願いします。

内容

① 本報告書の位置づけ(表紙・基本理念:P1~2)

本報告書は、パイプラインの現状と今後の方向性を共有するための保存版資料です。行政任せではなく、市民と行政が協働して課題解決を図る姿勢を明確にしています。

■ 重要ポイント

- 「自分の街は自分でつくる」という主体性
- 行政との協働の必要性
- 次世代への継承を見据えた活動

② パイプラインの現状と使用期限(P3)

条例により使用期限が定められています。老朽化は確実に進行しており、内部損傷や雨水侵入による吸引力低下のリスクがあります。

■ 重要ポイント

- 芦屋浜:2039 年 3 月末まで
- 南芦屋浜:2051 年 3 月末まで
- 「期限まで安全に使う」という現実的視点が重要です！

③ マナー違反ごみの実態(P4~5)

利用者起因のトラブルが発生し、設備停止や多額の税金支出につながっています。2025 年度も複数件発生しています。

■ 重要ポイント

- 利用者の行動が寿命を縮めている
- 修復に数百万円単位の税金
- 「ゼロ化運動」の必要性

④ 維持管理費の現状(P6)

年間約 2 億円規模の維持管理費がかかっています。補修材増加、臨時収集、備品購入等で費用は増加傾向です。

■ 重要ポイント

- 6 年間の費用推移を明示
- 障害発生がコスト増に直結
- 財政的持続性への警鐘

⑤ ごみ資源化の現状(P7)

芦屋市全体の資源化率は16.2%にとどまっています。CO₂排出量との関連も示しています。

■ 重要ポイント

- リサイクル率は横ばい
- ごみ減量は環境対策でもある
- 地域行動が地球環境に直結

⑥ 利用者トラブルの具体例(P8)

カギ摩耗や投入方法の誤りによるトラブルが20件発生しています。正しい使い方で防止可能です。

■ 重要ポイント

- カギは90度最後まで回す
- 結び目は横にして投入
- 小さな行動が大きな効果

⑦ 現在の吸引時間(P9)

2024年11月以降の運転スケジュールを明示しています。地区別に異なります。

■ 重要ポイント

- 日曜は停止
- 満杯のみ吸引の時間帯あり
- ルール遵守の徹底

⑧ 代替施設の実証実験(P12~13)

老朽化に備え、住宅形態ごとに代替方式を試行する実証実験を2026年に実施予定です。方式決定ではなく、基礎資料収集が目的です。

■ 重要ポイント

- パイプライン停止期間あり
- 3方式×約1か月
- 将来方針のためのデータ取得

⑨ 危険ごみ対策(リチウム電池)(P14)

火災リスクが高いリチウム電池の正しい排出方法を明記しています。

■ 重要ポイント

- 取り外し・絶縁
- 透明袋で分別
- 環境処理センター連絡先明記

⑩ 長期的視点(P15)

現状→短期対応→中期→長期という時間軸で将来像を示しています。

10P

■ 重要ポイント

- 現状維持は永続しない
- 段階的移行が必要
- 今から準備する意義

■ 強調すべき3点

1. 期限は決まっている(逃げられない現実)
2. マナー違反=税金増大=寿命短縮
3. 実証実験は将来の備えであり決定ではない

なお、500部は芦屋市の住民課へ芦屋浜・南芦屋浜地区へ引っ越しされる方に配布をお願いしています。

2. マナー違反状況(2025年4月～2026年1月)

① 全体傾向(利用者起因のみ)

主なトラブル:合計約 20 件(4月～翌年1月)

区分	件数	内容
カギ関連	8件	「回らない」「閉まらない」→途中抜き
バケツ詰まり	4件	衣類・紙類・異物混入
投入口内部詰まり	4件	アルミ缶・ごみ押し込み
排出弁詰まり	4件	新聞紙束・布類・スキーウェア等

② 原因分析(構造化)

A. カギトラブル(最多)

原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 摩耗したカギを使用 ・ 90度回さず途中抜き ・ 合カギで無理に回す
本質原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい操作が共有されていない ・ 高齢利用者の操作負担 ・ カギ交換ルール未徹底

B. バケツ詰まり

原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣類(スキーウェア) ・ 新聞紙束 ・ 押し込み投入 ・ アルミ缶混入
本質原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きさ制限の認識不足 ・ 「押し込めば入る」という誤解 ・ 分別理解不足

C. 排出弁詰まり(重大リスク)

原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞紙束 ・ 布類 ・ 弁への絡まり
本質原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30cmルール未徹底 ・ 袋を縦にして投入 ・ 束ねたまま投入

③ 地域傾向:地域別啓発強化が必要

- ・ 若葉町
- ・ 高浜町
- ・ 陽光町

→ 賃貸地域

→ 投入口の利用密度が高い地域

→ 高齢世帯率が高い可能性

④ リスク評価

項目	リスク
カギ摩耗	全体停止の連鎖
排出弁詰まり	吸引不能・管破損
異物混入	管内損傷加速

⑤ 対策(優先順位順)

【最優先】カギ対策(即効性)

1. 「90度回してから抜く」図解掲示(赤文字)
 2. 摩耗カギの交換キャンペーン
 3. 合カギ禁止明示
 4. 投入口に回転角度ステッカー貼付
- 8件は即減らせる可能性あり

【第2優先】投入ルール強化

1. 30cm以下を視覚化(実寸表示)
 2. 「押し込まない」強い表現
 3. 結び目は横に
 4. 束ねない
- 写真付き再掲示が効果的

⑥ 啓発の方向性(重要)

現在の啓発は「お願い型」⇒ 今後は: 損失回避型メッセージが有効

- ▶ 「停止=あなたのせい」明確化
- ▶ 税金〇〇万円表示
- ▶ 実際の詰まり写真掲示

⑦ 数値目標提案(2026年度)

項目	現状	目標
利用者起因トラブル	約 20 件	10 件以下
カギトラブル	8 件	2 件以下
排出弁詰まり	4 件	0 件

⑧ 私の見解(率直)

現在はまだ「警告段階」です。しかし、この件数が倍増すれば、条例期限前に実質機能停止も現実的です。最大の問題は“知らない”のではなく“軽視している”点。強い啓発と具体的な構造対策を同時に行うべき段階です。

● 利用者起因によるパイプライントラブルデータ

No.	月	日	曜日	時刻	時刻	区	町	機器名 (大分類)	機器名 (小分類)	状態	レベル	現場	トラブル発覚状況	作業内容	復旧	作業時間 (分)	作業時間 (時)	作業時間 (分)	労務費 (円)	巡回・定期	システム異常	備考
1	4	2	水	12:15	—	30118	陽光町	投入口地上部	カギ	閉まらない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
2	6	14	土	11:15	—	30118	陽光町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	2	10	20	1,000	◎	問い合わせ対応	
3	6	25	水	15:50	—	3071	新浜町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	
4	7	11	金	14:00	—	5039	高浜町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	1	10	10	500	◎	問い合わせ対応	
5	10	21	火	15:50	—	8059	若葉町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
6	11	19	水		—	30118	陽光町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
7	12	8	月	9:20	—	30118	陽光町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
8	12	10	水	11:40	—	3033	浜風町	投入口地上部	カギ	回らない	B	現場	カギ穴"開"の状態	合カギで正位置にもどす	復旧	1	5	5	250	◎	問い合わせ対応	
9	7	29	火	9:20	—	11149	緑町	投入口地上部	バケツ	開かない	B	現場	バケツ下にごみ詰り	ごみ除去・清掃	復旧	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	木製おぼん除去
10	10	14	火	9:10	—	5099	高浜町	投入口地上部	バケツ	開かない	B	現場	その他	ごみ除去・清掃	復旧	2	5	10	500	◎	問い合わせ対応	バケツ内にアルバム詰まり
11	12	24	水	12:20	—	33118	海洋町	投入口地上部	バケツ	ごみ詰り	B	現場	その他	ごみ除去・清掃	復旧	1	30	30	1,500	◎	問い合わせ対応	バケツ内にごみ詰まり(ごみをバケツに押し込んで投入)
12	12	30	火	16:50	—	10029	若葉町	投入口地上部	バケツ	開かない	B	現場	その他	ごみ除去・清掃	復旧	2	15	30	1,500	◎	問い合わせ対応	バケツ内にごみ詰まり(ごみをバケツに押し込んで投入)
13	1	7	水	11:10	—	8019	若葉町	投入口地上部	バケツ	開かない	B	現場	その他	ごみ除去・清掃	復旧	2	15	30	1,500	◎	問い合わせ対応	バケツ内にごみ詰まり(ごみをバケツに押し込んで投入)
14	11	3	月	6:01	○	11041	緑町	投入口地下部	吸気弁	閉異常	B	現場	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	復旧	2	30	60	3,000	◎	システム異常	段ボール破みこみ
15	9	10	水	5:53	—	30118	陽光町	投入口地下部	貯留ドラム	呑込異常	B	現場	貯留槽にごみ詰り・残留	ごみ除去・清掃	復旧	2	20	40	2,000	◎	システム異常	段ボールにより詰まり発生
16	4	1	火	6:38	○	8079	若葉町	投入口地下部	排出機弁	閉異常	B	現場	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	復旧	2	20	40	2,000	◎	システム異常	
17	4	5	土	15:51	×	5079	高浜町	投入口地下部	排出機弁	閉異常	B	現場	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	復旧	2	50	100	5,000	◎	システム異常	
18	4	14	月	15:44	×	8079	若葉町	投入口地下部	排出機弁	閉異常	B	現場	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	復旧	2	30	60	3,000	◎	システム異常	スキューア等衣類
19	5	1	木	6:04	○	5059	高浜町	投入口地下部	排出機弁	閉異常	B	現場	その他	ごみ除去・清掃	復旧	2	30	60	3,000	◎	システム異常	新聞紙の束
20	5	28	水	5:37	○	3101	新浜町	投入口地下部	排出弁	閉異常	B	現場	排出弁にごみかみ込み	ごみ除去・清掃	復旧	2	30	60	3,000	◎	システム異常	弁に衣類破み込み

3. 輸送管補修状況

芦屋市より2019年以降の輸送管工事の状況報告がありました。

作成:2026年2月24日現在
環境施設課

No	穴あき場所(町名)		発見月	現状	補修状況			備考	
					仮補修 (水中ボンド)	補修方法			
						内張り	外当て		輸送管交換
1	#3071 北系統	新浜町4	2018年 3月	内張材料押え 板摩耗		終了 (2019年2月)		終了 (2022年4月)	
2	#3071 南系統	浜風町1	2018年 3月	内張材料押え 板摩耗		終了 (2019年2月)		終了 (2022年12月)	
3	I-幹線	(地図①)	2022年 2月	内張材料押え 板摩耗・消失		終了 (2022年11月)			
4	I-#300	(地図②)	2022年 2月	摩耗穴下面		再調査の結果 取り止め (2023年1月)			
5	#500	(地図③)	2022年 2月	摩耗穴側面	終了 (2022年2月)	終了 (2022年11月)			信号線露出
6	II-#1200	(地図④)	2022年 2月	摩耗穴側面		終了 (2022年8月)			II-F-2点検口入管
7	II-#1200	(地図⑤)	2022年 2月	摩耗穴側面		終了 (2022年10月)			
8	II-#600	(地図⑥)	2022年 2月	摩耗穴側面		終了 (2022年10月)			
9	II-#600	(地図⑦)	2022年 2月	ピンホール腐食		終了 (2022年11月)			
10	I-#300	(地図⑧)	2022年 2月	ピンホール腐食		終了 (2022年11月)			
11	I-#400	(地図⑨)	2022年 2月	摩耗穴下面	終了 (2022年2月)	終了 (2023年1月)			

No	穴あき場所(町名)		発見月	現状	補修状況			備考
					仮補修 (水中ボンド)	補修方法		
						内張	外当て	
12	I-#400	(地図⑩)	2022年 2月	摩耗穴側面		終了 (2023年1月)		
13	II-#1000	(地図⑪)	2022年 2月	摩耗穴下面		終了 (2023年1月)		
14	II-#1000	(地図⑫)	2022年 2月	ゴムフレキ管 摩耗		終了 (2022年8月)		#1000点検口入管
15	I-4	(地図⑬)	2022年 5月	摩耗穴下面・ ゴミ噛み込み		終了 (2022年7月)		
16	I-6	(地図⑭)	2022年 8月	摩耗穴下面		終了 (2022年10月)		I-6点検口入管
17	I-F-1	(地図⑮)	2022年 8月	摩耗穴下面		終了 (2022年11月)		
18	#3071 北系統	新浜町4 (地図⑯)	2023年 9月 追加: 2024年 9月	摩耗穴側面 (追加)摩耗穴 側面		終了 (2025年1月)	終了 (2025年1月)	追加:本年度管更新 を予定していた箇所の 近くに新たな亀裂を発 見したため、内張補修 を追加するもの。当該 箇所は管亀裂から電 線管露出している
19	II-G-幹 線	緑町7 (地図⑰)	2023年 12月	摩耗穴下面			終了 (2024年12月)	R6.7水没原因
20	I-2-幹 線	浜風町18 (地図⑱)	2024年 9月	摩耗穴下面			終了 (2025年1月)	
21	II-7-幹 線	高浜町7 (地図⑲)	2024年 9月	摩耗穴上面		終了 (2025年2月)		交通用の信号基礎の 存在により管更新不可
22	#4019 南系統	高浜町9 (地図⑳)	2024年 6月	摩耗穴上面			終了 (2024年11月)	R6.6土砂流入原因

No	穴あき場所(町名)		発見月	現状	補修状況			備考	
					仮補修 (水中ボンド)	補修方法			
						内張	外当て		輸送管交換
23	I系幹線	浜風町 31 (地図⑳)	2024年 8月	穴あき	終了 (2026年1月)				
24	I-#300	新浜町 4 (地図㉑)	2024年 9月	穴あき				終了 (2026年2月)	
25	II-#600	浜風町 15 (地図㉒)	2024年 8月	穴あき		終了 (2026年2月)			
26	II-#800	若葉町 5 (地図㉓)	2024年 8月	内張り破損		終了 (2026年2月)			
27	II-#800	若葉町 5 (地図㉔)	2024年 8月	穴あき			終了 (2026年2月)		
28	II-#800	若葉町 4 (地図㉕)	2024年 8月	ピンホール		終了 (2025年12月)			
29	II-#800	若葉町 7 (地図㉖)	2025年	穴あき		終了 (2026年2月)			

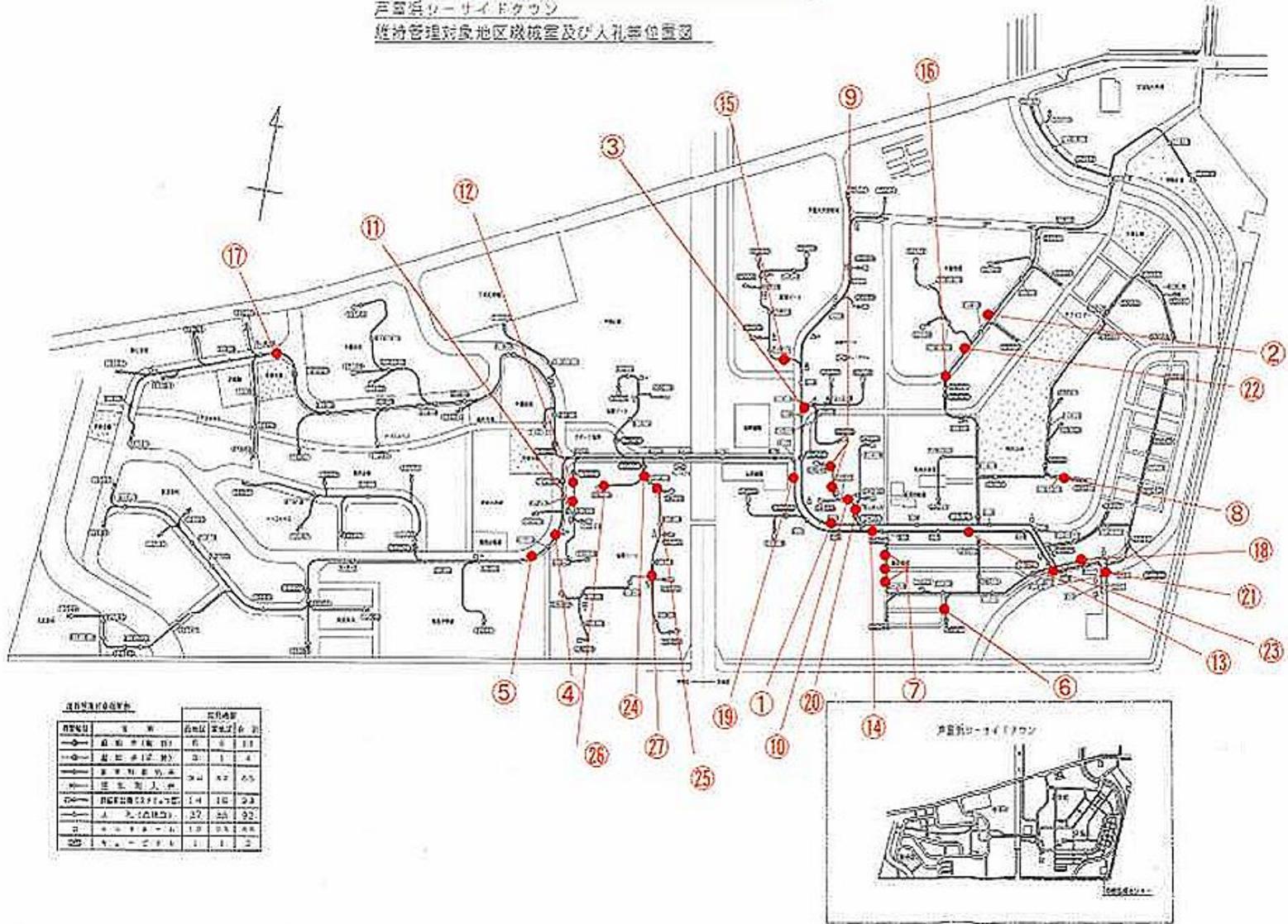
1月下旬よりパイプラインの補修工事を5箇所にて順次実施しております。その内1箇所(新浜町のラヴェール前)にて管路交換を実施する際に工事箇所より下流側が3日間ほど運転停止(期間:令和8年2月18日(水)~20日(木))となりましたので臨時収集を実施していました。この管路交換については予定通り先週土曜日で完了しています。

管路が曲がる箇所でしたのでゴミが当たり、こぶし大の穴が開いており吸引する空気も漏れておりました。現在はパイプラインの運転も通常に戻っております。

2025 年度(令和 7 年度) 補修完了箇所 位置図

令和 7 年度末 補修完了箇所 位置図

戸田浜リノサイドタウン
維持管理対象地区緑地帯及び入孔部位置図



輸送管補修状況計画-2026年度以降

作成:2026年2月24日作成

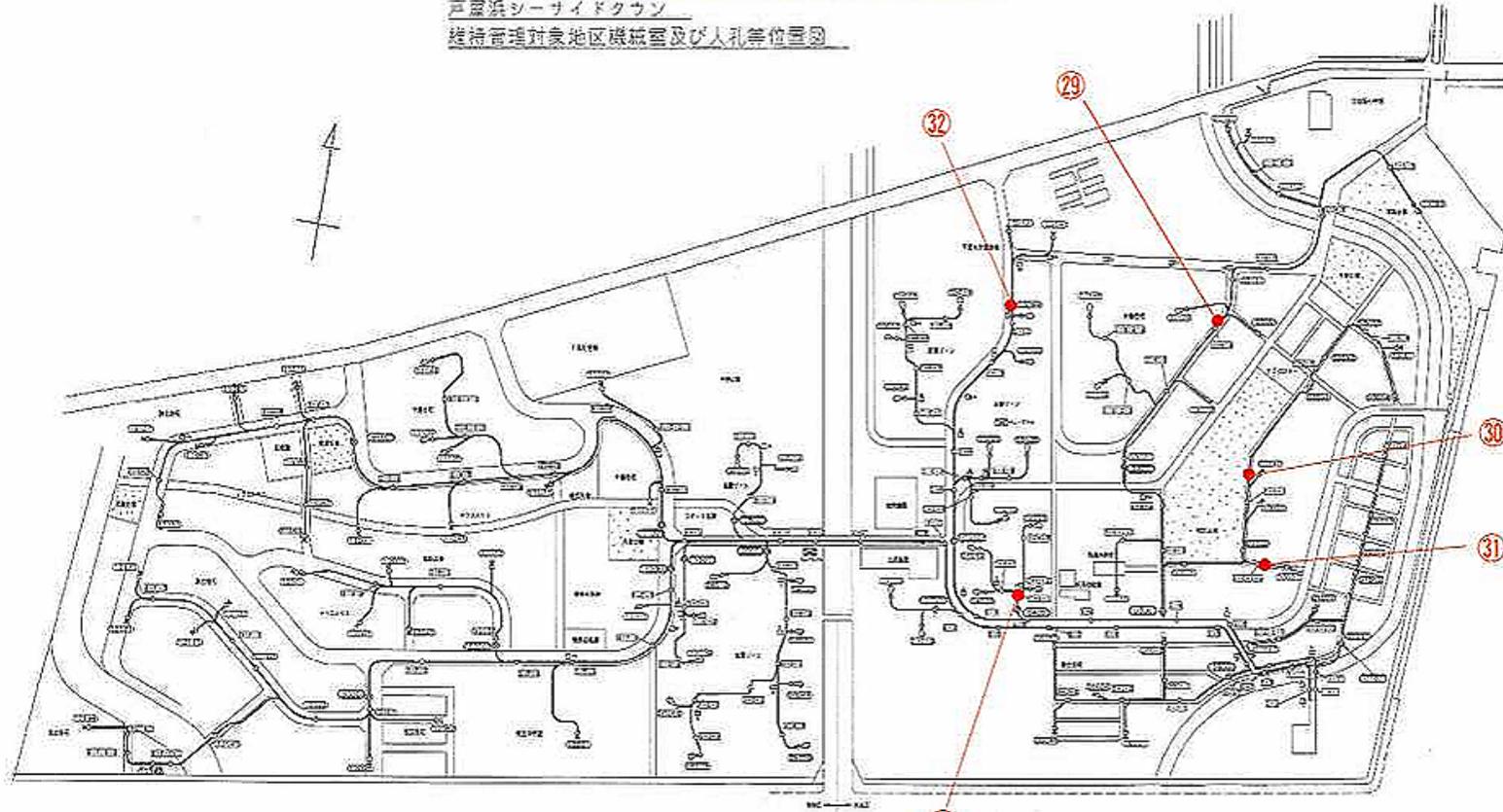
環境施設課

No	穴あき場所(町名)		発見月	現状	補修状況			備考
					仮補修 (水中ボンド)	補修方法		
						内張り	外当て	
30	I-#400	高浜町9 (地図⑳)	2025年 8月	穴あき		○		
31	I-#300-G	新浜町5 (地図㉑)	2025年 8月	穴あき		○		
32	I-#300-K	浜風町2 (地図㉒)	2025年 8月	穴あき		○		
33	I-#300-K-1	浜風町8 (地図㉓)	2025年 11月	穴あき		○		
34	I-#500	高浜町4 (地図㉔)	2025年 8月	穴あき	検討中			

2026 年度(令和 8 年度)以降計画図

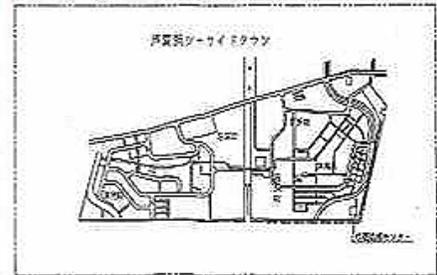
令和 8 年度以降 補修予定箇所 位置図

戸部浜シーサイドタウン
 雑居型高層マンション区画図及び人礼舎位置図



住居型高層マンション

住居型高層マンション	区画	戸数	完成時期
1	1	10	2014
2	2	10	2014
3	3	10	2014
4	4	10	2014
5	5	10	2014
6	6	10	2014
7	7	10	2014
8	8	10	2014
9	9	10	2014
10	10	10	2014
11	11	10	2014
12	12	10	2014
13	13	10	2014
14	14	10	2014
15	15	10	2014
16	16	10	2014
17	17	10	2014
18	18	10	2014
19	19	10	2014
20	20	10	2014
21	21	10	2014
22	22	10	2014
23	23	10	2014
24	24	10	2014
25	25	10	2014
26	26	10	2014
27	27	10	2014
28	28	10	2014
29	29	10	2014
30	30	10	2014
31	31	10	2014
32	32	10	2014
33	33	10	2014
34	34	10	2014
35	35	10	2014
36	36	10	2014
37	37	10	2014
38	38	10	2014
39	39	10	2014
40	40	10	2014
41	41	10	2014
42	42	10	2014
43	43	10	2014
44	44	10	2014
45	45	10	2014
46	46	10	2014
47	47	10	2014
48	48	10	2014
49	49	10	2014
50	50	10	2014
51	51	10	2014
52	52	10	2014
53	53	10	2014
54	54	10	2014
55	55	10	2014
56	56	10	2014
57	57	10	2014
58	58	10	2014
59	59	10	2014
60	60	10	2014
61	61	10	2014
62	62	10	2014
63	63	10	2014
64	64	10	2014
65	65	10	2014
66	66	10	2014
67	67	10	2014
68	68	10	2014
69	69	10	2014
70	70	10	2014
71	71	10	2014
72	72	10	2014
73	73	10	2014
74	74	10	2014
75	75	10	2014
76	76	10	2014
77	77	10	2014
78	78	10	2014
79	79	10	2014
80	80	10	2014
81	81	10	2014
82	82	10	2014
83	83	10	2014
84	84	10	2014
85	85	10	2014
86	86	10	2014
87	87	10	2014
88	88	10	2014
89	89	10	2014
90	90	10	2014
91	91	10	2014
92	92	10	2014
93	93	10	2014
94	94	10	2014
95	95	10	2014
96	96	10	2014
97	97	10	2014
98	98	10	2014
99	99	10	2014
100	100	10	2014



4. 令和7年度2月のワーキンググループの報告

1. 目的

老朽化するパイプラインに代わるごみ収集方法の検討を進めるため、

- ①モニター実施の準備状況確認
- ②ゴミ庫・カート収納方式の仕様整理
- ③評価アンケート設計 を協議しました。

2. 前回確認事項(方針の再確認)

- ・ ゴミ庫・収納ボックスは建築物としない方針
- ・ 実証実験は今後「モニター実施」と呼称
- ・ 実証実験でのアンケートは月1回×3回実施
- ・ 回答は原則WEB、紙回答はID付与で重複防止

3. パイプライン一時停止地域(高浜町2)の現状

- ・ ルール違反多発により運転再開は見送り
- ・ 臨時収集を継続(週3回→2回へ縮減/2月より)
- ・ 管理人によるマナー違反者への指定袋への入替行為あり(実態確認をURへ要請)
- ・ 強い警告文チラシ配布、破袋調査予告

4. モニター実施の選定状況

- ・ 高層:指定場所が遠く再検討中
- ・ 中層:文書配布済み、反応待ち
- ・ タウンハウス:辞退あり、再交渉中
- ・ 戸建:街区総会で説明予定

整理すべき点:

- ・ 市が決めるルールと自治会が決めるルールの区分
- ・ 各方式のメリット・デメリットの明示

共通課題(安全性・維持管理コストが成否を左右)

- ・ 可動部の耐久性(ヒンジ・ダンパー)
- ・ メンテナンス体制
- ・ 清掃水道の設置可否(基本料金問題)

5. アンケート設計(素案)

評価項目

- ・ 安全性
- ・ 使いやすさ
- ・ 距離・動線
- ・ 時間帯

21P

- 生活影響
- 飛散・臭気
- 景観
- 総合比較(第3回のみ)

特徴

- 4段階評価
- 属性(年代・性別)
- A3中折(1枚に収める)
- ID管理による重複防止

6. 今後の予定

- 第14回WG:3月10日
- 利用者の会:2月26日
- 第50回協議会:日程調整中

総括

現在の議論は「設備仕様の検討段階」にあるが、実態を見る限り、最大の課題は**運用ルールの遵守と住民合意形成**です。方式の優劣だけでなく、

- 管理責任の所在
- 維持コスト
- ルール違反への対応設計 まで踏み込んだ整理が不可欠となります。

以上